

住民投票で大阪市存続

昨日 11 月 1 日の大阪市廃止・特別区設置住民投票で、再び僅差ながら「反対」多数となり、政令指定都市・大阪市の存続が決まった。感無量であり、まずは大阪市民の賢明な判断に感謝したい。

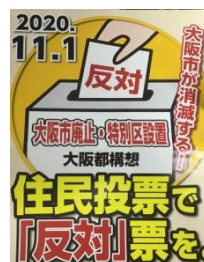
正直なところ、大阪市廃止という 5 文字が現実になるのではないかと危惧していた。コロナ禍で投票率が前回を下回り、滅多に見ない開票速報で「賛成」が 1 万票近く多くなり、不安な思いをつのらせた。そのあとで「反対多数確実」といったテロップが流れ、思わず「やった」と叫んだ。でも「賛成」の方が多く、「大誤報」ではないかと疑った。維新などの記者会見が始まり、やっと大阪市存続を確信した。

興奮して眠れぬ夜であった。まだ考えがまとまらないので、写真により 2 日前から振り返ってみよう。昨日レポートしたように、10 月 31 日 17 時から南森町交差点角で、「大阪市残す！学者研究者有志の会」の街頭宣伝に参加した。写真はフェイスブックに投稿されていた私のスピーチ。131 年の歴史をもつ大阪市を廃止してはならない、まずは大阪市を存続させて、じっくり改革していこうと訴えた。自宅近くで、最後のポスティングをして帰宅した。



そして住民投票の日、11 月 1 日を迎えた。午前中に投票を済ませたが、なんだか落ち着かない。大阪・市民交流会の住民投票で「反対」票を、という大きめのポスターを持って、もういちど近くの投票所に行った。午前中より、投票所に足を運ぶ人が多かった。

投票所前には、「れいわ」の若い人がチラシを配っていたが、その隣で写真のポスターを手にして立つことに



した。しばらくすると、「れいわ」の若者が立ち去り、一人だけでポスターを掲げることになった。投票所に向う人が、ちらりとポスターを見てくれているようだった。記念に「証拠写真」を残そうと、初めてスマホで自撮りなるものをしてみた。腰痛の身には、立っているだけで腰にこたえる。お年寄りには、私の辛い気持ちが「ようつう」じたと思う。

写真下は今朝 6 時 18 分の朝焼けの空。わずかな時間であったが、今の私の気持ちを表しているようだ。何とか大阪市が存続することになり、これからが本格的なまちづくりのスタートなのだ。じつは、大阪市が廃止され特別区が設置された時、どのよう



に研究、行動していくかを考えていた。政令指定都市・大阪市をどう持続的に発展させていくか、じっくり練っていきたい。この間、多くの人から学んだことを生かしながら。

(2020 年 11 月 2 日)